

わたしの深い音楽話



ピアニスト

みやざわ めいこ
宮沢 明子さん

〈プロフィール〉

神奈川県生まれ。3歳頃からピアノを弾き始め、1955年全日本学生音楽コンクール1位、文部大臣賞受賞。桐朋学園音楽科を経て、61年渡米。エール大学音楽部、ジュリアード音楽院で学ぶ。63年ジュネーブ国際音楽コンクール2位。64年ケネディ大統領追悼コンサート(米国・NY)のソリストに選ばれ、同年ヴィオッティ国際音楽コンクール金賞1席。78～79年NHK教育「ピアノのおけいこ」講師出演。録音は、69年世界初のハイドン「ピアノ・ソナタ全集」、73年モーツァルト「ピアノ・ソナタ全集」など多数。著書「ピアニストの休日」、ベルギー在住。

「最後になってもいい」と思える、 アルバムをつくりたい!

演奏は人間ありき、心ありき

心のひだに触れてくるピアノ演奏で知られ、ベルギーを拠点に活動してきた宮沢明子さん。5月11日「May」生まれだから、「明子」と書いて「メイコ」。でも、海外では「マイコ」と呼ばれている。

「メイコは外国人には読めない、言いにくい。それにマイコの方が、ファイトある感じですよ!」

ミッキーマウスが大好きで、この日もTシャツ、帽子、小物に至るまで、身の回りにはミッキーがいっぱいだった。

「頭文字が私と同じM・Mってこともあって、ジュリアードで勉強してた頃から大好き(笑)」

家には「ミッキーグッズがたくさん」と気さくに語る。音楽の話になると、さらに

ホルテージが上昇。

「最近、コンクールでも速弾きとかが目立って…。『心をどこに置いてきたの?』って、悲しくなるわ。例えば、ショパンのエチュードはどれもポエジー。でも背景には苦悩がある。つらくても美しい音色を目指した苦、美しさを愛した苦。ミスなく速く弾けばいいわけじゃない…」と、終わりなした。

最新作は、天国の家族に

ほぼ毎月、日本と行き来するようになり、昨年18年ぶりにアルバム『心こめて』を発表した。ショパンやベートーヴェンからサティ、ピアソラまで、みずみずしい「明子サウンド」で表現。好反響を呼び、今夏新たに『心こめて2』をリリースする。



▲お供のミッキーたち。ピースの鍵盤のケースは「ファンの手作り。いつもスイカを入れてる」。

これはスカルラッティ、ガルツピらの、イタリア・バロック稀曲集。まるで永遠のせせらぎのように、澄んだ音脈がどこまでもさらさら流れる。魂が浄められ、昇華される幸福感を味わえる演奏だ。

「この首は、天国に届いてほしい! 思いを込めて弾いたのよ!」

前向きでエネルギーシユな明子さんだが、心の支えは家族だった。

「まず、ピアニストだった母。いつも『次は、もっとよくなるわよ』って、言ってくれて。94歳まで直行便で訪ねて来ましたね。写真家だった夫は『僕は君の一番のファンだよ』って。慶應義塾大学で犯罪学の先生をしていた兄に、ベートーヴェンの『ピアノ・ソナタ全集』を録音して聴かせてあげられなかったのが心残りね…」

3人を見送ってからは、演奏先で「明子さんの一言を聴いただけで涙が出る」と言われるたび、元気が湧いてくるという。

「これからの目標? 『最後になってもいい』と思えるアルバムをつくりたいの!」

(原納暢子)

With All My Heart 2



MEIKO MIYAZAWA

凜とした響き! 稀有のバロック曲集

宮沢明子「With All My Heart 2 心こめて」

7月22日発売

収録曲

- チマローザ D.Cimarosa ソナタ No.13、No.8、No.15
- スカルラッティ D.Scarlatti L.23 ホ長調、L.24 ホ短調、L.33 ロ短調、L.449 ロ短調、L.93 イ短調、L.108 二短調、L.423 二短調、L.187 へ短調、L.118 へ短調、L.483 イ長調
- ガルツピ B.Galuppi ソナタ 第5番 八長調

「With ALL My Heart 1 心こめて」好評発売中!

収録曲

サティ: グノシエンヌ1番、ピアノソラ: チキリン・テ・バチン、ショパン: 夜想曲20番、シューマン: 歌星、ポルトキエヴィッチ: 作品48、ベートーヴェン: ソナタ31番、フランク: 前奏曲、フーガと変奏曲 作品18 ほか計10曲

